

貫井中学校・練馬第二小学校・練馬第三小学校

中学校区の特徴

- 学校の教育活動を理解して興味や関心をもつとともに、その活動が円滑に運営できるように支援する等、協力的な家庭・保護者が多い。
- 町会や地域等における行事や活動を通じて、地域住民と児童・生徒との積極的な関わりや交流がある。

目指す15歳の姿

- 【学んだことを活用しながら、将来の進路開拓に自ら歩いていくことができる生徒】
- 学んだことを活用しながら、興味や関心をもって自ら学習に取り組むことができる児童・生徒 〈学習指導の視点〉
 - 相手のことを思いやり、考えながら適切に行動できる児童・生徒 〈生徒指導の視点〉
 - 将来の希望や目標をしっかりともち、すすんで努力できる児童・生徒 〈キャリア教育の視点〉

1 小中一貫教育の取組プログラム

児童・生徒が、学んだことを活用して自己実現を図るためには、小中学校の9年間の「学びの連続性」「育ちの連続性」を考慮し、系統性・連続性を意識したプログラムを設定していくことが必要である。2カ年の研究では、円滑な接続を実現し小中一貫教育が一層推進するよう、校区の小中学校の日常の教育活動を、3つの視点から以下のように整理した。

視点		○学んだことを活用しながら、興味や関心をもって自ら学習に取り組むことができる児童・生徒 〈学習指導の視点〉	○相手のことを思いやり、考えながら適切に行動できる児童・生徒 〈生徒指導の視点〉	○将来の希望や目標をしっかりともち、すすんで努力できる児童・生徒 〈キャリア教育の視点〉
中学校	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を有効活用した授業 ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・振り返り・まとめの時間に課題を整理する授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識したあいさつ、言葉遣い ・小中一貫アンケート ・生徒会活動、係・日直活動、部活動 ・行事における縦割り学年の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導 ・高校の先生から話を聞く会 ・上級学校への訪問 ・面接対策講座 ・キャリアパスポート
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を有効活用した授業 ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・振り返り・まとめの時間に課題を整理する授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識したあいさつ、言葉遣い ・生徒会活動、係・日直活動、部活動 ・行事における縦割り学年の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校に関する調べ学習 ・職場体験学習 ・キャリアパスポート
	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を有効活用した授業 ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・振り返り・まとめの時間に課題を整理する授業 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識したあいさつ、言葉遣い ・生徒会活動、係・日直活動、部活動 ・行事における縦割り学年の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート「貫井中大好き」の実施 ・身近な人の職業に関する調べ学習 ・キャリアパスポート

小学校	第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員による出前授業 ・中学校の授業見学 ・ICT機器を有効活用した授業 ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・全員が参加する授業－協働学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識したあいさつ、言葉遣い ・小中一貫アンケート ・中学校の合唱コンクールリハーサル見学 ・児童会活動、係活動 ・縦割り班の交流 ・集団遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動体験や授業・見学会への参加 ・中学校合唱コンクールのリハーサル見学 ・中学生に向けてのアンケートの実施 ・多様な世界で活躍する人について学ぶ ・キャリアパスポート
	第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・ICT機器を用いた授業 ・全員が参加する授業－協働学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・TPOを意識したあいさつ、言葉遣い ・児童会活動、係活動 ・縦割り班の交流 ・集団遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な世界で活躍する人について学ぶ ・キャリアパスポート
	第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・ICT機器を用いた授業 ・全員が参加する授業－小グループでの活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んだあいさつ ・児童会活動、係活動 ・縦割り班の交流 ・集団遊び、クラス遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍する人について学ぶ ・キャリアパスポート
	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・ICT機器を用いた授業 ・全員が参加する授業－小グループで活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んだあいさつ ・縦割り班の交流 ・集団遊び、クラス遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍する人について学ぶ ・キャリアパスポート
	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・ICT機器を用いた授業 ・全員が参加する授業－2～3人組の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んだあいさつ ・縦割り班の交流 ・集団遊び、クラス遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢を語る ・キャリアパスポート
	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題共有シートに基づいた授業展開 ・ICT機器を用いた授業 ・全員が参加する授業－2～3人組の活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んだあいさつ ・縦割り班の交流 ・集団遊び、班遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の夢を語る ・キャリアパスポート

2 令和6年度の小中一貫教育に関する3校合同の取組の日程と内容

研究2カ年目の今年度は、以下のように設定した。

日程	内容
6月19日(水)	第1回校區別協議会(中学校の授業参観、分科会協議)
7月～3月	部活動体験会(小学校第6学年対象)
10月3日(木)	小学校第6学年の授業・部活動見学会
10月18日(金)	貫井中学校合唱コンクールのリハーサルを見学
10月23日(水)	第2回校區別協議会(小学校の授業参観、分科会協議)
12月初旬	中学校生活についてのアンケートを実施(事後)
12月中旬	中学校第1学年「貫井中大好き」アンケートを実施
12月～1月	中学校教員による出前授業

3 取組の様子

(1) 学んだことを活用しながら、興味や関心をもって自ら学習に取り組むことができる児童・生徒を育成するための取組〈学習指導の視点〉

本取組うち、有効であった2点を紹介したい。1点は、多くの児童が中学校進学を意識する12月に、貫井中学校の教員が練馬第二小学校、練馬第三小学校に出向き、小学校6年生を対象に中学校で展開している授業を実践した。この取組の目的は、「小学校で学んだ既習事項や習得した知識を活用しながら中学校で学習する内容に挑戦すること」「中学校の授業形態や学び方を体験するとともに、児童がさらに学習に興味・関心を高めること」としている。小学校6年生にとって効果的と思われる数学科・英語科等の出前授業を行い、学習後のアンケートでは、以下のような感想があった。



英語科の授業実践の様子

- 中学校の授業がすごく楽しみになった。
- 小学校で授業の内容よりも難しかったけれど、頑張りたい。
- ICTで説明があったり、ICTをたくさん使っていてわかりやすかった。

児童は、日常生活している小学校の教室で中学校の授業を体験することにより、落ち着いて学習に臨むことができた。児童は、中学校の学習への不安が少し解消されるとともに、関心ある内容に対しては学習意欲が高まった。さらに、このことがきっかけで小学校では、他教科の授業でも学習に向き合う児童の姿勢がよくなる様子も見られた。

2点は、中学校において各学期に『ICT活用週間』を設定した。設定の背景は、授業アンケートや小中一貫アンケートの中に「ICTを活用した授業は、他の場面より学習が楽しい」という児童・生徒の意見が多く見られたことである。一方、すでに小学校がアプリケーションソフト等を用いた授業が児童の学習理解の一助となっていることもあった。中学校においてもICTを活用した授業が、普段着のようになることが急務であり、令和6年度は校内研修の一環としてICTの有効活用の在り方を探り、教員全体のICT活用力の向上を目指した。『ICT活用週間』は中学生にも好評であり、回を重ねるごとに、中学校の教員間で教科を超え互いのICT活用方法を共有していく状況が見られた。また、その研修実績を生かして校区别協議会では、小学校の教員と情報教員を行い、より有効な活用方法を検討した。教員の授業力向上の観点では、校種を問わず、教員の授業の手法が広がり、児童・生徒の学習意欲の向上につながった。

2点の取組は、児童・生徒が自ら学習したことの意義や価値を実感できる姿勢を育む契機となったと考える。

(2) 相手のことを思いやり、考えながら適切に行動できる児童・生徒を育成するための取組〈生徒指導の視点〉

一人一人の児童・生徒の成長を支えるにあたっては、日々の生活から発生する問題行動への対応といった消極的な生徒指導から、すべての児童・生徒の健全育成を目指す積極的な生徒指導への変換が求められる。そして指導方針を共有し、発達段階のつながりを意識した支援や指導を丁寧に積み上げていくことが大切である。そのため、貫井中学校区では以下の取組を行っている。

第1回の校區別協議会全体会において、中学校生活指導主任から生徒の学校生活を収録した動画を使い、中学校の生活指導の方針について説明した。動画内容のうち、特筆すべきことは日直活動と学校行事での取組である。年度当初から約2ヶ月間、様々な場面の中で「自ら判断し決定し実行する」ことを意図的に実行することで生徒は自己実現を体感していく。〈生徒指導の視点〉の分科会では、中学校で活用している学校生活だよりや小学校の生活指導マニュアルを使って、成長に応じた生徒指導の在り方を共有した。小学校段階では相手に敬意をもちながら行動する児童を育成し、中学校段階では自己理解を深め他者を認め互いを思いやり支え合う生徒を育成することを目指し、日々の指導を実践していることが、学校間で確認することができた。

(3) 将来の希望や目標をしっかりともち、すすんで努力できる児童・生徒を育成するための取組〈キャリア教育の視点〉

小学校・中学校に共通していることは、特別活動の充実を図っていることである。学校行事において、小学校では、学年に応じて自分の役割を全うし、周囲と一緒に協力し挑戦することに焦点を置き、中学校では、生徒が主体となっていくことに焦点を置いて、集団活動を通して多様な他者とかかわる力を育成している。それぞれの発達段階や活動場面により目標は異なるが、上級生が真剣に取り組む姿や



運動部の部活動見学の様子

逆に中学生が一生懸命に取り組む小学生の姿を見ることは、次のステージの目標になると考える。そのため、小中一貫教育でも「部活動見学・体験会」や「合唱コンクールのリハーサル見学会」等の取組を積極的に登用し、特に接続期の中学1年生と小学6年生の交流を重点化した。部活動見学会では、各運動部生徒は小学生に、活動のやりがいなどを説明し、小学6年生児童は目を輝かせ聞き入っていた。また文化部では、ミニコンサートを開き、おもてなしの気持ちを伝え、大きな手拍子とともに鑑賞する様子も見られた。部活動見学会後、小中一貫アンケートには次の感想が寄せられた。

- 部活動がより楽しみになった。(小学校6年生)
- 中学校では、周りを見て何事にも一生懸命頑張りたい。(小学校6年生)
- 小学生に上手く伝えられなかったので言葉遣いなどを工夫したい。(中学3年生)
- 頼られる先輩になるために日々の練習を頑張りたい。(中学3年生)

4 今年度の成果と今後の方向性

成果については、「部活動体験会・見学会」「合唱コンクールのリハーサル見学会」「授業見学」等、中学生と小学生が交流活動することは、体験による充実感だけでなく、中学校生活の不安を減少し楽しみや期待に変換することが明らかになったことである。実際に今年度入学の中学1年生は、4月より安心して中学校生活を満喫し不登校の出現率も低い。また、校區別協議会を通じて学校間で実践報告を行い、教員は指導力向上に対する視野を広げることができた。問題行動が発生した際の生徒指導についても、各校の指導を可視化することで一貫した指導に向けて、整えることができた。

今後の方向性については、校區別協議会の分科会を「学習指導」「生徒指導」「特別支援教育」「キャリア教育」の4分科会で行っていく。喫緊の課題に着目しながら、今後も貫井中学校学区の特色に応じた研究を進めていきたい。